

## 1. はじめに

この行政評価は、効率的で効果的な行政運営を推進するために、宮田村が行う事務事業を評価するもので、むらづくり基本条例に規定されています。

当評価委員会で行う評価は、行政自らが行った「内部評価」の結果を受けて実施する「外部評価」として位置づけられており、宮田村が令和2年度に実施した内部評価である事務事業評価結果を基に評価を行ったものです。また評価に加え、効率的で効果的な事業の推進を図るための提言も含め後述のとおり取りまとめました。

なお、評価委員会の構成は以下のとおりです。

委員長代理    千頭 聡（日本福祉大学 教授）  
                  土屋 康登（八十二銀行 宮田支店長）  
                  上原 守（アルプス中央信用金庫 宮田支店長）  
                  三沢 文明（税理士）  
                  中塚 美佳（むらづくり委員会）  
                  中谷 洋子（公募）  
                  杉山 久美（公募）  
                  小田切 等（公募）

## 2. 評価の日程と方法

評価の日程と評価の方法は、以下及び別紙「評価結果シート」のとおりです。

- ・ 第1回行政評価委員会 令和2年 7月30日 午後1時～3時  
（評価事業：一般管理事務／財産管理事務／村づくり事業）
- ・ 第2回行政評価委員会 令和2年 8月20日 午後1時～3時  
（評価事業：図書館管理運営事務／文化財保護事業／情報化推進事業）
- ・ 第3回行政評価委員会 令和2年 8月21日 午後1時～3時  
（災害対策事業／一般道路改良舗装事業／ごみ減量化事業）
- ・ 第4回行政評価委員会 令和2年 9月17日 午前10時～正午  
（評価のまとめ／報告書の作成）

### 3. 評価の総括

村で実施した全事業の評価シートの中から、9事業を行政評価委員が選定して評価を行いました。本項では、その中で上げられた評価全体に関する総体的な課題などについてまとめました。

#### (1) 評価制度の活用

この行政評価は、実施している事業の目的を捉え、P D C Aのサイクルを回すことで、事務事業をスパイラルアップしていくための取り組みであると考えます。

今年度は、事務事業評価シートに昨年の行政評価委員会での評価結果・指摘事項への対応を記載する欄を設けたなどの改善が見られたものの、行政評価委員会による「チェック」(評価)がどんな「アクション」(改善)に繋がったか、という点がやはり見えづらい状況にあります。

次年度以降に向け、この行政評価委員会での評価を各担当課がどう受け止めて、どんな行動を起こし、改善につなげたのかを説明できるようお願いします。

#### (2) 事業選定の方法

評価する事業の選定に際しては、事務事業評価シートに記載のある内部評価結果や事業費などの情報が主な指標となっていますが、過去3年間程度を目安に今までに評価したことがあるかないかを情報として示していただけると、今までスポットの当たらなかった事業にも注目できると考えられます。

また事務局から評価を希望する事業を提示することも検討して下さい。特に明らかに進捗状況がよくない事業、毎年のように同じ評価を繰り返している事業など、積極的に公にしていく必要があると考えます。

### 4. 評価結果

別紙「評価結果シート」のとおりです。

# 評価結果シート

【令和 2 年度 行政評価委員会】

事務事業名	一般管理事務				
担当課	総務課				
総合判定	A	委員評価状況			
		A(現状維持)	B(改善)	C(縮小・見直し)	D(廃止)
		6人	1人		
総合判定 所見	<p>職員の管理にかかわる事務であり、必要な業務である。 業務の増加により、時間外勤務の増加など職員への負担が懸念されるため、人員配置が適正かどうかなど検証が必要。</p>				
項目別 平均点 (5点満点)	必要性	有効性	効率性	優先性	
	4.7	4.1	4.0	4.9	
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理事務であり、移管は難しい。</li> <li>・業務量に合わせて人員配置(非常勤職員を含む)を最適化することにより、職員の健康を守りながらコストを削減できるのでは。</li> <li>・業務の水準を保ちながら職員の負担を減らす必要がある。</li> <li>・総合窓口について、職員が対応しているのはもったいない気もするが、職員の接遇研修等の意味合いもあることは理解できる。</li> <li>・総合案内から案内された後の担当課の職員の資質向上も目指してほしい。</li> </ul>				
提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人員配置および組織体制が適正かどうかの検証の実施。</li> <li>・総合窓口について、コストの側面を意識した効果検証の実施。</li> <li>・効率化(コスト削減)の改善の余地の有無について検証の実施。</li> </ul>				



■担当課記載欄

R2.11月記載	
改善方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな業務拡大が予想されるなかで、現行職員数で効果的に事業を進めるために人員配置を含め組織・機構の検討を進める。</li> <li>・総合窓口については、その必要度合い、有効性など9Sサブリーダー会により検証を行う。</li> <li>・令和3年度予算編成にあたり効率化をより一層進める。</li> </ul>
翌年(R3)記載	
改善実績	

事務事業名	財政管理事務				
担当課	総務課				
総合判定	A	委員評価状況			
		A(現状維持)	B(改善)	C(縮小・見直し)	D(廃止)
		7人			
総合判定 所見	財政の管理に必要な業務であり、総体的には効果が認められる。 ふるさと納税の運用事務で一層の工夫を。				
項目別 平均点 (5点満点)	必要性	有効性	効率性	優先性	
	4.9	4.6	4.3	4.6	
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成25年～令和元年の間に財政健全化判断比率が相当改善されている。</li> <li>村内者が村外へふるさと納税することによる流出額が思っていたより少なかった。</li> <li>返礼品目当ての人は寄附金の使途に興味がないかもしれないが、もう少し明確にすることで、返礼品ではなくそれを使った事業を応援してくれる人からの寄付を募れるのでは。</li> <li>ふるさと納税のサイト使用料が高いと感じた。</li> <li>返礼品について、新型コロナウイルスの影響が大きかったところに声をかける等、PRの仕方を工夫しては。</li> <li>将来的な下水道料の値上げが必要になる事態への対策が気になる。</li> </ul>				
提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふるさと寄附金の使途に興味を持たれるようなPR方法等の検討を。</li> <li>下水道事業のコスト削減の取り組みの検討を。</li> </ul>				



■担当課記載欄

R2.11月記載	<ul style="list-style-type: none"> <li>まず、ふるさと納税に関わる経費がより見える化できるように、令和3年度予算から、ふるさと納税専用事業コードを設定し、事業費管理する。寄附金の使い道を前面に出したPR方法等については検討したいが、まずその前に、使い方を明確にした予算編成の仕組みを構築したい。(現在はなんどなく目的にそった財源充当をしている)</li> <li>下水道事業については、計画的に処理区の集約化とコンポストセンターの廃止を進めており、今後、さらにコスト削減を進めるには、処理区の面積縮小と一部地域の浄化槽化などが考えられる。しかし、それはすぐに計画することが出来ないのが現状である。これまでは低料金で下水道を使用できたが、今後は適正な使用料に向けて値上げしていくことが妥当であるとする。</li> </ul>
改善方針	
翌年(R3)記載	
改善実績	

事務事業名	村づくり事業				
担当課	みらい創造課				
総合判定	B	委員評価状況			
		A(現状維持)	B(改善)	C(縮小・見直し)	D(廃止)
		3人	4人		
総合判定 所見	住民協働の村づくりという観点で行う事業であるが、今一度住民のニーズに沿えるような内容に制度を見直していく必要があるのでは。				
項目別 平均点 (5点満点)	必要性	有効性	効率性	優先性	
	3.4	3.6	3.9	4.0	
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・決算額が毎年減っていて、予算がうまく活用されていない印象を受ける。</li> <li>・予算が余るとことは想定よりも住民の利用が少なく、ニーズがないとも考えられるので、厳しい言い方をすれば廃止も含めた検討も必要では。</li> <li>・毎年、交付金額が余っているが、活用できるように周知してほしい。</li> <li>・利用しやすい制度にすれば効果は上がるのでは。</li> <li>・補助対象事業は、住民参加による地域づくり活動が前提であるが、もう少し地域づくり活動の定義を大きくとらえ、対象となる事業をもう少し広くみてほしい。</li> <li>・現状、対象経費について委託料や人件費などを補助対象にしていないが、これらについても再検討しては。</li> <li>・区で活用しやすくすることもいいが、地域づくりに取り組む団体の育成も考えていく必要があるのでは。</li> </ul>				
提言	・住民が利用しやすくなるよう、制度の見直しについて検討を。				



■担当課記載欄

R2.11月記載	令和2年度中に「宮田村地域づくり支援事業補助金交付要綱」及び「宮田村地域づくり支援事業採択内規」の見直しを実施し改定済み。令和3年度からの募集に向け、地区担当制度などを活用し周知と支援を行う。
改善方針	
翌年(R3)記載	
改善実績	

事務事業名	情報化推進事業				
担当課	みらい創造課				
総合判定	A	委員評価状況			
		A(現状維持)	B(改善)	C(縮小・見直し)	D(廃止)
		7人			
総合判定 所見	事業効果は高く、費用面を考慮しても有益な事業となっている。 継続して、より充実した情報発信を。				
項目別 平均点 (5点満点)	必要性	有効性	効率性	優先性	
	4.9	4.4	4.6	4.3	
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコン更新はお金がかかるが、計画的に入れ替えて職員の仕事環境を良くしてほしい。</li> <li>・費用をかける必要があるものの、その見返りがわかりづらい面がある。</li> <li>・ホームページ更新作業など、一部事務について外部人材の活用も視野に入れては。</li> <li>・ホームページでの情報発信はタイムリーにしてほしい。</li> <li>・住民にも村外の方にも必要な情報が発信できると良い。</li> <li>・遠方から利用することも多々あり、ニーズは住民ばかりでない。</li> <li>・リターンしたい人々、また、コロナで帰省できない人々が画面を見ていると思う。充実した配信を望む。</li> <li>・他市町村に負けないよう頑張してほしい。</li> <li>・多量な情報を効果的に検索できるような体制をとってほしい。</li> <li>・住民も巻き込んだ「みやさん」の活用を期待する。</li> <li>・AIチャットボットなど、非常に良い取り組みだと思う。</li> <li>・みやさんのふるまい方が人によって違うところがある。利用規定等を徹底させては。</li> </ul>				
提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャラクターは飽きられないよう、継続的なPRを。</li> <li>・ホームページやSNSは継続的な更新を。</li> </ul>				



■担当課記載欄

R2.11月記載	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力創造プロジェクトの情報発信チームによる「みやさん」を活用した新たな取り組みを企画予定。</li> <li>・庁内各担当課からの情報発信を継続的に実施していけるよう、発信体制を強化を行うとともに、発信に対する効果の測定手段について研究する。</li> </ul>
改善方針	
翌年(R3)記載	
改善実績	

事務事業名	ごみ減量化事業				
担当課	住民課				
総合判定	A	委員評価状況			
		A(現状維持)	B(改善)	C(縮小・見直し)	D(廃止)
		8人			
総合判定 所見	ごみの減量化に向けた重要な取組であり、事業効果も評価できる。 コストの面の課題への取組が必要。				
項目別 平均点 (5点満点)	必要性	有効性	効率性	優先性	
	4.3	4.0	3.9	4.6	
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみの減量化に向けた取り組みは必要。住民の意識定着につながる。</li> <li>・資源化推進は全体的事業効果は高いが費用面が課題と感じる。</li> <li>・プラスチックごみを含む家庭ごみを燃やす家庭が見受けられるので、啓発を継続してほしい。</li> <li>・町部は畑に捨てるとカラスが来て困るのでどうしても袋で出してしまう。</li> <li>・宮田を含む上伊那地区はゴミが少ない。すごいと思う。</li> <li>・暮らしていくには、ゴミが出て片付けが必要。ゴミが減るようなきっかけ、リサイクルできる機会をあり、ありがたい。</li> <li>・生ごみ処理機を使って生ごみを出せた保育園の時の体験は子供にとっても、親にとってもゴミを減らすことのきっかけになり良かった。</li> <li>・東保、処理機搬入立会の人件費については必要性を見直してもよい。</li> <li>・使わなかったごみチケットを回収すると、学校へ交付金として入ってくることは知らなかった。</li> <li>・家庭用ごみ処理機の購入補助について、機械の単価も上がっており、補助額を拡充してほしい。</li> </ul>				
提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみチケット回収によって学校へ奨励金(交付金)が入ることについて広報を。</li> <li>・大型ごみ処理機の運用見直しについて検討を。</li> </ul>				



■担当課記載欄

R2.11月記載	
改善方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみチケット回収事業は、小学校の環境教育の一環として平成22年度に創設され、当村では住民の皆様にも回収について広くご協力いただいているが、事業の目的について改めて広報周知を図り、この事業を推進する。</li> <li>・大型ごみ処理機は更新時期にきているが、費用対効果の面から困難と考えており、住民の搬入については少数少量でもあることから住民課側の運用について来年度からの見直しを検討する。</li> </ul>
翌年(R3)記載	
改善実績	



事務事業名	一般道路改良舗装事業				
担当課	建設課				
総合判定	A	委員評価状況			
		A(現状維持)	B(改善)	C(縮小・見直し)	D(廃止)
		8人			
総合判定 所見	計画に沿いながら、現地の状況や複数のお工事の状況を踏まえて道路改良を進めている。 引き続き計画的な実施を期待する。				
項目別 平均点 (5点満点)	必要性	有効性	効率性	優先性	
	4.4	4.0	4.6	4.4	
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補修しなければならない道路も多く、予算の削減は難しい。</li> <li>・着実に道を直してもらい、ありがたい。</li> <li>・車と人が安全に行き来するために重要。</li> <li>・着実に道路整備がされており、効果あり。</li> <li>・全ての要望を聞くことは予算関係上不可能であり、定期計画的な実施を期待する。</li> <li>・道路工事をする要望調査はたくさんありすぎて大変だと思う。</li> <li>・自分の周りには特にきれいにしてほしいという要望する人が多いことが考えられるのが、フェアに取り組んでほしい。</li> <li>・職員の方々が現地に出向いて道路の状況を見て検討してくれているので、ぜひ続けてほしい。</li> <li>・今後もコストがかかる事業、財源の確保をどんな方法でするのか工夫が必要。</li> <li>・住民向けの伝え方の工夫として、道路を何メートル修繕するといくらお金がかかるのか、という点も広報してみてもいい。</li> </ul>				
提言	生活道路の修繕がすぐにできない部分について、住民の方への伝え方の工夫を。				



■担当課記載欄

R2.11月記載	
改善方針	引き続き道路ストック調査結果を踏まえて計画的な舗装修繕を予算の範囲内で進める。 区要望に対する回答の際はできるだけ丁寧に説明するとともに、道路改良・舗装修繕などの実施状況や建設コストなどを広報やホームページで周知する。
翌年(R3)記載	
改善実績	

事務事業名	災害対策事業				
担当課	総務課				
総合判定	A	委員評価状況			
		A(現状維持)	B(改善)	C(縮小・見直し)	D(廃止)
		7人	1人		
総合判定 所見	災害の備えとして重要な事業であるが、早急に取り組むべき課題が多い。				
項目別 平均点 (5点満点)	必要性	有効性	効率性	優先性	
	4.6	4.0	4.4	4.5	
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者も多く避難等の支援が必要。</li> <li>・物資などの購入はまだ必要であり、コストの削減は難しい。</li> <li>・備蓄品の確保に予算充当してもらえるとありがたい。</li> <li>・毎年災害が増えているが、自分の家は大丈夫だと思っている人が多い。防災訓練の趣旨を話し、参加を促してほしい。</li> <li>・コロナのことが加わり、また、防災に関する業務継続計画の策定などが進んでいないとのことで、万一に備えた災害対策が必要。</li> <li>・村民の命を守るために基本となる計画を完成させてほしい。</li> <li>・備品の確保、業務継続計画の策定、地域防災計画の定期的な見直し・修正についていずれも進捗状況が非常に悪い。万一に備え、計画を充実させてほしい。</li> <li>・村内で起こる災害を想定した上で、現実的な対策をとる必要がある。</li> <li>・早急に取り組むべき課題が多い。</li> </ul>				
提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務継続計画については至急、策定を。</li> <li>・防災訓練の住民の参加の促進等、取り組みの強化を。</li> </ul>				



■担当課記載欄

R2.11月記載	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務継続計画については、今年度中の策定に向け取り組んでいる。</li> </ul>
改善方針	
翌年(R3)記載	
改善実績	

事務事業名	図書館管理運営事務				
担当課	教育委員会				
総合判定	A	委員評価状況			
		A(現状維持)	B(改善)	C(縮小・見直し)	D(廃止)
		7人			
総合判定 所見	住民ニーズもあり、利便性などについても取り組んでいる姿勢が評価できる。 今まで以上によりよい活動を期待する。				
項目別 平均点 (5点満点)	必要性	有効性	効率性	優先性	
	4.3	4.0	4.7	4.7	
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館長が気さくに声をかけてくれて印象がよい。</li> <li>・図書館利用を促す取組みが継続されるとよい。</li> <li>・利用してもらうために試行錯誤している様子が伺える。</li> <li>・子ども達と中高生のボランティアと一緒に利用できると来る楽しみがいっそう味わえる。</li> <li>・年代、性別によってニーズの高さに違いはあると思うが、これからも暮らしに役立つ図書館であってほしい。</li> <li>・図書館まつりを2日から1日にしたことで、参加者も増え、効果があったと思われる。</li> <li>・幅広い年代層に利用してもらう方策を考えてほしい。</li> <li>・住民ニーズはあると思われるので、広報によりいかに興味を持ってもらえるかが重要。</li> <li>・生涯学習の場であり、コストはかけていくべき。</li> </ul>				
提言	より図書館に興味をもってもらえるよう、広報の仕方等の検討を。				



■担当課記載欄

R2.11月記載	ICTを活用した図書館サービスの充実を図るとともに、乳幼児期から学童期にかけての子どもの読書活動を推進します。また、Facebookをはじめ新たな媒体での情報発信を実施します。
改善方針	
翌年(R3)記載	
改善実績	

事務事業名	文化財保護事業				
担当課	教育委員会				
総合判定	A	委員評価状況			
		A(現状維持)	B(改善)	C(縮小・見直し)	D(廃止)
		7人			
総合判定 所見	住民の興味が高くはないが、村のアイデンティティに関わる価値のある重要な事業。 住民がより興味を持つことでニーズも高まっていくことが期待される。				
項目別 平均点 (5点満点)	必要性	有効性	効率性	優先性	
	3.7	4.0	4.0	4.6	
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民が、文化財の価値を理解できるような取組みができると良い。</li> <li>・村外から人を集める価値のある事業だと思うが、住民がもう少し興味を持たないと他市町村の方々も見学に来ないかも。</li> <li>・住民がまだ目を向けていない分野だと感じた。住民が目を向けていけるような活動を少しずつでも進めてほしい。</li> <li>・宮田宿調査の結果、その後の活動が楽しみ。</li> <li>・地道な取組みを日々続けていることに感謝。</li> <li>・宮田村の歴史を知ってもらうために子供のころから興味を持つために何らかの協力をしてほしい。</li> <li>・村の財産物をもう少しお金をかけても良いので守って行ってほしい。もともとの予算額が低いのでは。</li> <li>・生活に直結する事業ではないため、ニーズは低い。ただし、文化保護・活用は重要。</li> <li>・ニーズはやや低い、重要なものが多く、PR次第ではニーズが生まれる。</li> <li>・常設展示の仕方の工夫してほしい。既存の博物館等、訪れた人が入りやすく、見やすい環境を整えてほしい。</li> </ul>				
提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民が興味を持てるようなPR方法等の検討を。</li> <li>・子どものころから興味を持てるような取組みの検討を。</li> </ul>				



■担当課記載欄

R2.11月記載	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮田宿の歴史的建造物など、文化財の活用機会を増やすと共に、文化財指定・登録を進め、調査成果の報告会やシンポジウム等を通してPRの機会を増やす。</li> <li>・子どもが参加し易い文化財関連イベント(体験教室やまつり等)を実施するほか、小中学校の総合学習や社会見学・出前講座等に協力し、子どもたちが文化財や村の歴史に興味を持てる機会を増やす。</li> </ul>
改善方針	
翌年(R3)記載	
改善実績	